

### ③ 「こころの絆創膏」と悩みの相談について

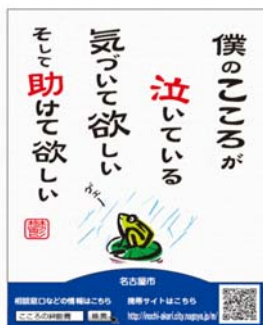
私たちの身の回りには、様々な悩みやストレスが存在します。深刻な悩みや強いストレスが続くことによって、うつ病などこころの病気を発症し、最悪の場合は自殺に追い込まれる可能性もあります。深刻な悩みなどの困難に直面したときは一人で抱え込まず、早めに誰かに援助を求めることが大切です。

このアンケートでは、うつ病をはじめとするこころの不調に気づき、様々な悩みの解決につなげるための取組みである「こころの絆創膏」や悩みの相談について市民の皆さまの意識や考え方などをおたずねし、今後の事業実施の参考とさせていただきます。

※各図表の「N」は、回答者総数を表しています。

名古屋市では、悩みに応じた各種相談窓口を印刷した携帯用の絆創膏「こころの絆創膏」の配布や、悩みを抱えた方やその周囲の方が自ら適切な相談窓口を探していただけるよう各種相談窓口の情報等を掲載したウェブサイト「こころの絆創膏」を開設しています。

【こころの絆創膏】



←紙ケースの中には絆創膏が入っています。

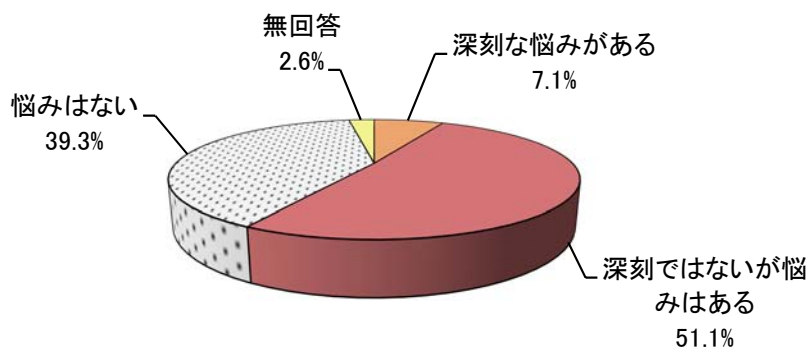


【ウェブサイト「こころの絆創膏」検索】



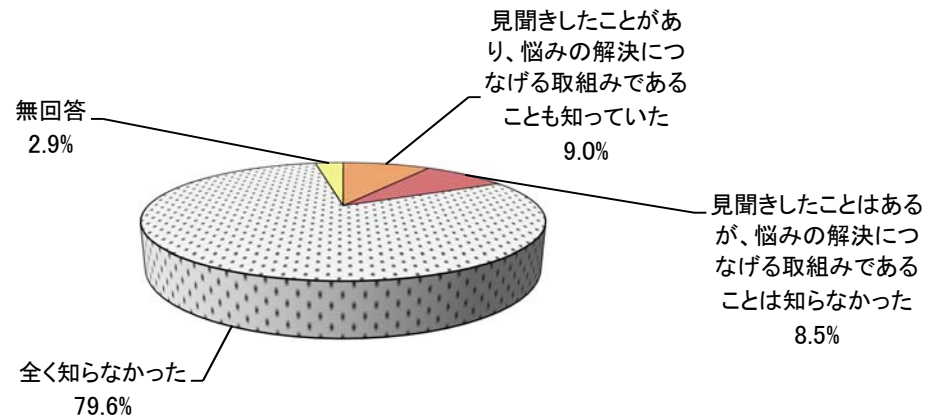
問 26 あなたは現在、一人では解決できない深刻な悩みがありますか。(○は 1 つだけ)

N=975



問 27 あなたは、様々な悩みの解決につなげるための取組みである「こころの絆創膏」という言葉を知っていましたか。(○は1つだけ)

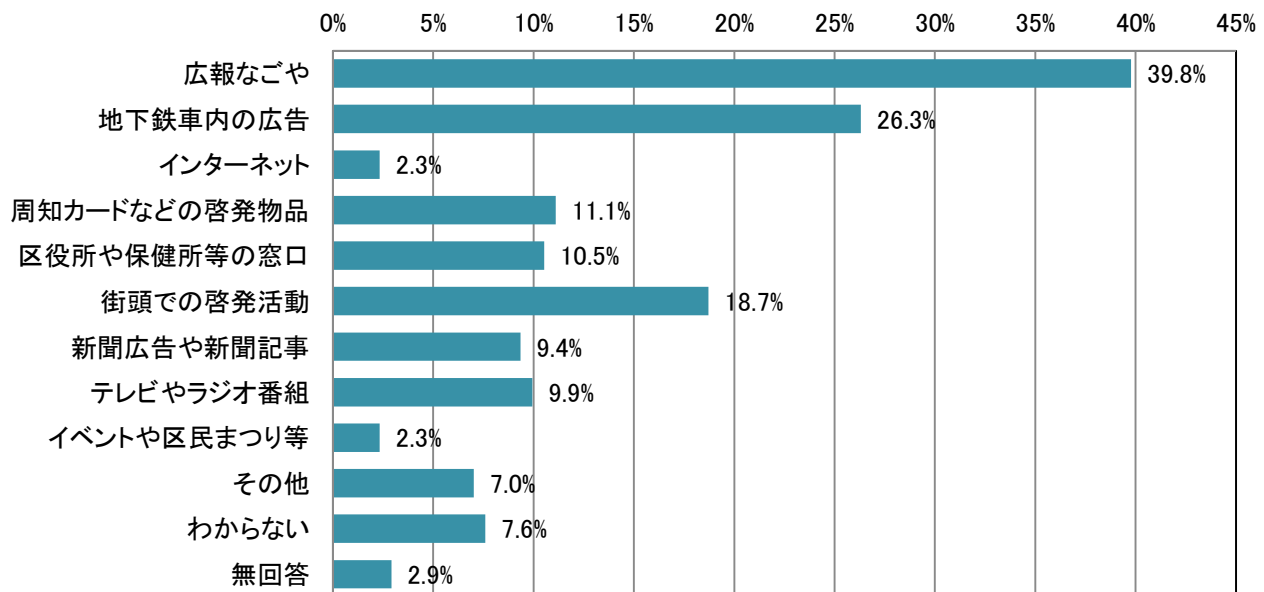
N=975



《問 27 で 1～2 と答えた方（「こころの絆創膏」という言葉を見聞きしたことがある方）におたずねします。》

問 28 あなたは、「こころの絆創膏」という言葉をどこで知りましたか。(○はいくつでも)

N=171



《すべての方におたずねします。》

＜「ゲートキーパー」について＞

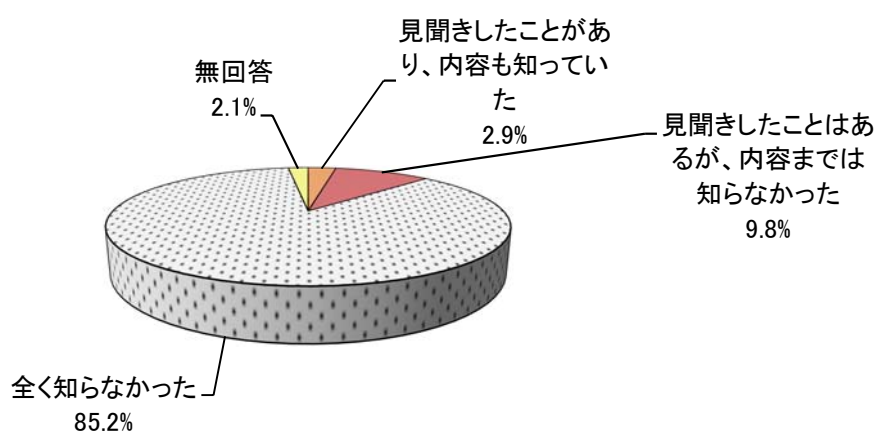
悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなぎ、見守っていく役割が期待される人を「ゲートキーパー」（直訳すると「門番」）といます。

「ゲートキーパー」は決して専門家だけになるのではなく、普段の会話に少し意識を加えることで、誰もが家族や友人、職場の同僚のゲートキーパーになることができます。

名古屋市では、各生涯学習センターにおいて市民向けの「傾聴講座」等を開催し、ゲートキーパーの養成を行っております。

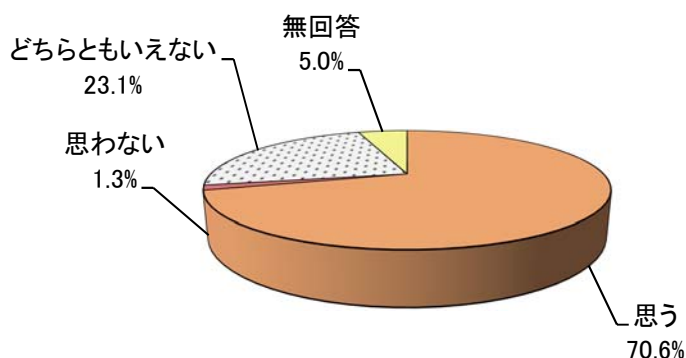
問 29 あなたは、「ゲートキーパー」（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなぎ見守る人のこと）という言葉を知っていましたか。（○は1つだけ）

N=975



問 30 もし仮に、あなたの家族など身近な人が何か悩みを抱えている様子だと気が付いた場合、あなたは、その方の助けになろうと声をかけ、話を聞こうと思いますか。（○は1つだけ）

N=975

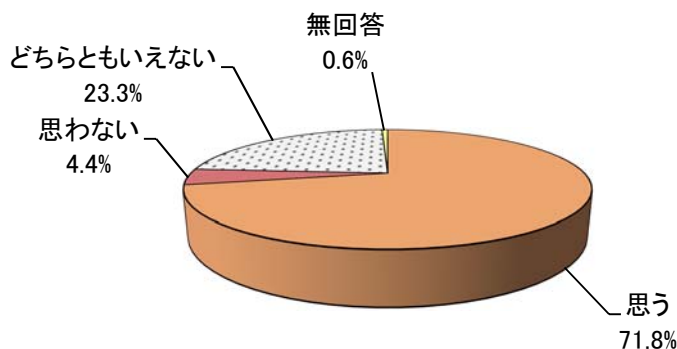


《問 30 で 1 と答えた方（「思う」と答えた方）におたずねします。》

問 31 もし仮に、あなたの家族など身近な人が一人では解決できない深刻な悩みを抱えているとあなたが感じた場合、その方に専門の相談機関（※）に相談するよう勧めるとお考えですか。（○は1つだけ）

※ 専門の相談機関として、区役所や保健所、精神保健福祉センターなどの行政が設置する相談窓口のほか、弁護士会や司法書士会など民間の相談機関が数多く存在します。

N = 688



《すべての方におたずねします。》

問 32 あなたは、一人では解決できない深刻な悩みを抱えたときに、どのような相談の機会があればよいとお考えですか。（○はいくつでも）

N = 975

